



# No.1 土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開

- 活動期間 令和5年度～令和7年度
- 対象者名 農事組合法人おおぬぎ彩土里ファーム（役員6人）
- 課題の背景
  - ・鹿飼沼地域の大区画圃場整備事業を契機に令和3年8月に法人化。組合員20戸、経営面積約80haの土地利用型経営。
  - ・代表理事は若手（40代）だが、ほかの役員やメインオペレーターは高齢化が進んでおり、持続的な営農のため事業計画の見直しが必要。
  - ・令和5年に将来ビジョン（5年後）を策定し、担い手確保のため周年作業の平準化、高収益作物導入による収益向上に取り組むことになった。
  - ・令和5年に試験栽培を実施したさつまいもは、品質・収量ともに良好な結果（出荷量1,568kg/10a、所得率40～50%）となり、令和6年から法人の経営品目となった。また、長ねぎ栽培も開始するため、引き続き栽培技術向上と経営収支分析支援を実施する。

## 令和6年度

目 標	活動事項	普及活動のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 5年後の将来ビジョン実現に向けた経営品目の見直しや人材確保に向けた取り組みが実施される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 経営管理能力向上支援                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総会開催支援</li> <li>・事業計画作成のための専門家指導会</li> </ul> </li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 昨年度総会準備が遅れたことから計画的に取り組むように助言し、滞りなく準備が行われた。6/23に総会を開催し、すべての議案について承認された。</li> <li>■ 若手が法人営農で生活が可能になることを目指し、代表理事の報酬の支給時期、金額を見直した。</li> <li>■ 事業を活用してライスセンター（建物、汎用乾燥機6台）を導入した。水稻の収穫作業の効率化や、大豆の乾燥調製作業による冬季の作業の創出を図る。</li> <li>■ 将来ビジョン実現に向け、専門家指導会を1回開催し、ビジョンのブラッシュアップに取り組んだ。具体的な取組事項を追記し、中期事業計画を策定することとした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 周年作業平準化及び所得の安定確保に向けた高収益作物の導入が検討される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 栽培技術向上支援（さつまいも（ねぎ））                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場改良指導</li> <li>・定植作業指導</li> <li>・巡回調査</li> </ul> </li> </ul> 	<p>（さつまいも）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栽培面積R5年 12a→R6年 30aに増加。土壌分析に基づく施肥及び排水対策について指導。</li> <li>■ 機械定植前に法人代表及び関係機関とともに他農家を視察し、情報収集を実施。</li> <li>■ 定植は6/10～6/12。定植後の極度な乾燥により、約5割が活着不良で枯死。今後収量及び所得率等について分析を行うとともに、適期での定植作業や収量の確保に向けた対策の検討が必要。</li> </ul> <p>（ねぎ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 5月下旬に定植。今後、生育・収量の確認、収支の分析等を行う。</li> </ul>

## 意図する対象の変化（最終年度）

- 周年作業平準化及び所得の安定確保に向けた高収益作物の導入が検討される。
- 5年後の将来ビジョン実現に向けた経営品目の見直しや人材確保に向けた取り組みが実施される。

数値目標：新規導入品目数

R4：0 → R5：1（実績1） → R6：1 → R7：2